

2013 年度前期
「教員による授業アンケート」

～調査結果報告～

平成 25 年 11 月

奈良佐保短期大学 自己点検評価室

目 次

基礎教養科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
1	英会話	キャンベル早川久美子	演習	1
2	英語 I	椎野 美知子	演習	2
3	キャリアデザイン	碓 ともみ	講義	3
4	国語表現法	宮川 久美	講義	4
5	人権と差別	馬越 かよ子	講義	5
6	フランス語 I	浅野 友子	演習	6

生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
7	介護過程 I	笹谷 真由美	講義	7
8	家事支援の技法 I・被服	福田 満代	演習	8
9	グリーンプランニング I	寺田 孝重	講義	9
10	グリーンプランニング I	前川 良文	講義	10
11	高齢者の心理	森永 夕美	講義	11
12	こころとからだのしくみ II	赤松 香奈子	講義	12
13	コミュニケーション演習	池田 曜子	演習	13
14	生活経営・管理の技法	北口 照美	講義	14
15	生活支援技術 I	富岡 郁子	演習	15
16	相談援助の基盤と専門職	浦田 雅夫	講義	16
17	点字	福田 佳久子	演習	17

生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
18	カラーコーディネート論	中村 妙子	実習	18
19	食事療法実習	須谷 和子	実習	19
20	食品科学	池内 ますみ	講義	20
21	食品微生物学	三浦 さつき	講義	21
22	人体の構造と機能 I	毛受 真由美	講義	22

生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
23	イラストレーション	松河 哲男	演習	23
24	経理実務 I	谷村 真理	実習	24
25	プロダクトデザイン I	大倉 清教	演習	25
26	マーケティング	向井 光太郎	実習	26

地域こども学科 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
27	音楽 I	大城 弓恵	演習	27
28	音楽 I	大西 有紀	演習	28
29	音楽 I	中島 倍代	演習	29
30	音楽 I	宮田 真理	演習	30
31	音楽 I	山下 玲子	演習	31
32	音楽Ⅲ	奥田 尚子	演習	32
33	社会的養護内容	山口 直範	演習	33
34	障害児保育	中島 順子	演習	34
35	小児保健 A	早川 淳	講義	35
36	小児保健演習	安永 龍子	演習	36
37	体育	村田 トオル	演習	37
38	保育心理学	石田 裕子	講義	38
39	保育表現演習	和田 公子・片岡 三和	演習	39
40	保育(表現・音楽)	河合 摂子	演習	40
41	保育(表現・音楽)	澤田 博	演習	41
42	保育(表現・音楽)	本間 晶子	演習	42

専攻科 福祉専攻 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
43	介護総合演習 I	武田 千幸	演習	43
44	コミュニケーションの基本	松岡 美穂子	演習	44
45	生活レクリエーション	遠藤 光子	講義	45

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : キャンベル早川久美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英会話 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8325a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 25名 **回答者数** : 20名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	-	1	1	-	1	1	17	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均							
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.65												
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.40												
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.60												
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切		とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	-	30.0%	65.0%	5.0%	-	-
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.00												
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.90												
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.00												
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった		非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-	45.0%	55.0%	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.80												
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	3.75												
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.75												

1 授業の概要、特徴等

本授業は主教材では、さまざまな会話場面で用いられる定型表現を、あいさつ、紹介、感謝、提案、依頼、助言など、10の項目に分け、それぞれの表現の使い方を解説し、知識のまとめと整理、練習を踏まえてその応用をするという形で進めた。親しみやすいモデル会話を活用してのダイアログの活用や、また、自律的学習力を固めることを目的に、復習・予習中心に「話すため瞬間英作文」をほぼ毎回課した。

2 アンケート評価結果に対する見解

一回生で、はじめての相互学習(対話練習)であり、なおかつ英語を使ってということ、打ち解けて、和やかに会話練習するのに、環境設定を要した。また、確かに或程度の英語力を持っているのに積極的姿勢にかけていたり、逆に全く英語がわからないものもいるという多様な学生の集団で或るところの難しさを感じる。回を進めるにしたがって、コミュニケーションの楽しさを深めていってくれたことは喜ばしい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標にあげた実践的な英語運用については、基礎表現場面においては基礎力を培うことができた。また、適切な場面を設定しての異文化理解は常に言及し、理解を深めるように努めたことの成果は期待できる。評価基準ならびに単位の認定はオーラルテストと、理解力の判断材料としてペーパーテストを課した。なお、積極的なコミュニケーションを図ることを意図して平常点50%で評価した。

4 授業改善の方法

選択制になったものの、まだ、情業への参加姿勢、積極度はさまざまである。できるだけもっとやりたいと思っている学生に機会を与え、わからなくて始めからやり直したいと思っている学生もうまく取り込んで視覚的に整理できるように工夫したい。ただ、新知識を或程度増やすこと、言葉のやりとりは、聞いて理解するという事が基本にあるのでその実践的練習は今後も重視していきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 椎野 美知子 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : 英語 I 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8305a 授業形態 : 演習 受講者数 : 27名 回答者数 : 25名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	23	2	-	-	1	2	1	20	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.12	[Bar chart showing student evaluation average for item 1]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.28	[Bar chart showing student evaluation average for item 2]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.16	[Bar chart showing student evaluation average for item 3]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答
				16.0%	20.0%	64.0%	-	-	-
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.25	[Bar chart showing student evaluation average for item 5]					
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.33	[Bar chart showing student evaluation average for item 6]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.52	[Bar chart showing student evaluation average for item 7]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった		非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答
				28.0%	40.0%	32.0%	-	-	-
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.40	[Bar chart showing student evaluation average for item 9]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.08	[Bar chart showing student evaluation average for item 10]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.12	[Bar chart showing student evaluation average for item 11]					

1 授業の概要、特徴等

1 The Japan Times 中の記事「日本文化への外国人の質問」の英文を読解する。 2 内容について全員で話し合ってから自分の意見をレポートにまとめる。 3 記事の中の1節を音読練習して、皆の前で発表する。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講生全員がまじめに課題に取り組んでくれてうれしく思った。 静かに授業を進めることができた反面、少し積極性に欠けると感じた時もあった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

やる気を出せるよう短期間に区切って評価をした。 毎回の小テスト、時々行う音読テスト、レポートなど多方面にわたって評価できるよう工夫した。

4 授業改善の方法

少し教材が難しかったので、後期は範囲を狭めたりヒントを多くしたりして、学生にもっとやる気を起こさせる工夫をしたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 碓 ともみ 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : キャリアデザイン 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8190 授業形態 : 講義 受講者数 : 153名 回答者数 : 124名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	122	1	1	-	12	38	4	70	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.88	[Bar chart showing distribution]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	2.34	[Bar chart showing distribution]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.79	[Bar chart showing distribution]					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切		とても多い 4.0%	やや多い 7.3%	適切 84.7%	やや少ない 0.8%	とても少ない 2.4%	無回答 0.8%
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.51	[Bar chart showing distribution]					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	3	4.20	[Bar chart showing distribution]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.42	[Bar chart showing distribution]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった		非常に高かった 8.1%	やや高かった 16.1%	適切であった 71.8%	やや低かった 3.2%	非常に低かった 0.8%	無回答 -
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.12	[Bar chart showing distribution]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.33	[Bar chart showing distribution]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.38	[Bar chart showing distribution]					

1 授業の概要、特徴等

大人として大切である「社会人基礎力とコミュニケーション力」を実践的に教える。人間関係の構築から他者に自分を伝える力を養い、社会とは、人との関わりとは、を正しい常識とともに伝えていく。その中で自身のキャリア(人生・仕事)の在り方について考え、今、自分が思うことを声に出して発言していく「自分を表現する」ことを意識させた。授業は生徒のパフォーマンスを中心に考えており、出来る限り全員参加して頂くとともに、実際に全員の前で発言したことに対しても、個別でコメントを伝える対話型授業を展開する。毎回、席替えをすることによって、誰とでも話し合いが出来る様に工夫した。

2 アンケート評価結果に対する見解

内容を分かりやすく、生徒が興味を示し参加しやすい身近な題材を授業に取り入れたため、比較的評判が良かった様に思える。対話をしながらの授業と質問に対して「分かりません」と言う言葉をなくし、どの様なことでも「自分の意見」を言わせたことで生徒も安心して返答できたのではないのでしょうか。しかし、授業中にトイレに立つ生徒が各クラスに1名~2名いたことと自分の発言ではない時の私語があり、生徒を授業に向かせることに苦慮し課題として挙げられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

初めの授業では、人前に立って自分の意見を言うことに慣れていなかったが、徐々に慣れてき始め、自ら意見を述べることを望む生徒が増えてきて、人前で自分の話を出来る様になり、ほとんどの生徒が目標達成出来たのではないかと感じる。成績評価は出席率を重視しそれを基準に考えた。(3クラス平均92.5%の出席率) また、試験の論述に関してほとんどの生徒が指示通りの書き方をしており、高得点を得た。単位認定に関して、試験を受けた者は全員認定した。

4 授業改善の方法

私語が目立つようになったため、毎回席替えをして新しい席順にしてみた。また、グループワークを増やし、居眠り防止をし、グループワーク後には必ず発言させるので、緊張感を持って授業に臨ませた。今後の授業改善方法として、興味があることをリサーチしそれを授業に関連づけて進めていけるようにしていく。具体的にキャリアカウンセリング業務を大学で行っている中で、その中から興味や不安に思っていることをリサーチをしていき、興味と実践的に役に立つことをミックスした社会人基礎力を養う授業内容に吟味していき、次の講義につなげていきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 宮川 久美 職名 : 教授 所属 : 全学
 科目名称 : 国語表現法 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8110 授業形態 : 講義 受講者数 : 95名 回答者数 : 78名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	65	12	-	1	1	4	1	69	-	-	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.05						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.29						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.67						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 5.1%	やや 多い 19.2%	適切 73.1%	やや 少ない 2.6%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.12						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.06						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.15						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 7.7%	やや 高かった 25.6%	適切 であった 65.4%	やや 低かった 1.3%	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.99						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.13						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.12						

1 授業の概要、特徴等

日常の言語表現(口頭表現および文章表現)において、自分の考えをまとめ、聞き手に伝わるように表現できるようになることを目指している。規範意識を持ち、聞き手を尊重した表現を身につけるよう、ワークを行い、その都度不適切な表現を是正し、自然に正しい読み書き、口頭表現が身につくように工夫している。

2 アンケート評価結果に対する見解

ほぼじめに授業に取り組んだと思われる。しかし、たとえば、待遇表現にしても、仮名遣い・送り仮名についても、規範意識に欠け、なぜそうなのかを説明してもあまり聞きたがらず、マニュアルだけを聞きたがる。それでは応用が利かないので多少難しくても理論の説明部分も聞いてほしい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

繰り返しワークをし、提出してもらったものを添削して返却し、小テストを行い、それも添削して返却しているが、なかなか、完璧なところまでは到達しない。5回の小テストで60パーセント以上正答すれば、単位認定した。

4 授業改善の方法

できるだけわかりやすく、例を挙げて説明する。説明したことは直ちに実際にワークなり、ロールプレイ等でやってみて身につけさせるようにする。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 馬越 かよ子 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 人権と差別 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8105 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 92名 **回答者数** : 85名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	46	39	-	-	38	42	2	1	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.32						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.55						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.45						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 4.7%	やや 多い 24.7%	適切 69.4%	やや 少ない 1.2%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.42						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.48						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.53						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 9.4%	やや 高かった 28.2%	適切 であった 61.2%	やや 低かった 1.2%	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.35						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.44						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.33						

1 授業の概要、特徴等

大阪府の人権情報ガイドやプリントを活用して、人権問題や差別を生み出すメカニズムについて、「普遍的な視点」と「個別的な視点」からアプローチし、「全ての人間の尊厳」を実現するために個人や社会がどうあるべきかを考察し行動に結び付けることを目的とする授業である。授業毎に気づいたことをコミュニケーションカードにより提出し、次回に紹介して他者の考えを知る。また、グループ討議により見出した課題解決について発表するとともに他者評価を受け新たな認識へと発展させる。

2 アンケート評価結果に対する見解

介護福祉士、栄養士、保育士等対人支援専門職として、対応する高齢者、障がい者、女性、子ども等の個別的な課題と具体的な事例を取り上げることで、関心が高くなり受講態度や授業内容に対する理解が良好であったと思われる。また、社会人学生の生活経験や体験をうまく引き出すことで、学習内容を日常生活に反映させる効果に繋がり、学ぶ楽しさを体感できたのではないかと考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業毎の学びや気づきを記述させるコミュニケーションカードや時々の課題に対するレポートもA~Dにより評価した。科目修了のレポート内容やグループ討議と発表を単位認定の重点とした。積み重ねにより授業の目標はおおむね達成できたと考えられるが、評価基準に学生個人の人権意識だけでなく、専門職として今後係わる他者への啓発力も加味した。

4 授業改善の方法

基本的知識を知るだけでなく自分の問題として真に理解し、日常生活で行動できることが求められる科目であるため、一人一人の考えを深めさせるディスカッション等の手法をさらに工夫する。所要所で欠席する学生に対して継続したグループ討議への参画や役割の果たし方など改善が必要である。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 浅野 友子 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : フランス語 I 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8330 授業形態 : 演習 受講者数 : 34名 回答者数 : 26名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	23	3	-	-	1	2	-	21	-	-	2

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.35									
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.04									
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.52									
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切		とても多い 15.4%	やや多い 15.4%	適切 57.7%	やや少ない 7.7%	とても少ない -	無回答 3.8%			
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.31									
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	3.58									
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.73									
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった		非常に高かった 34.6%	やや高かった 46.2%	適切であった 15.4%	やや低かった 3.8%	非常に低かった -	無回答 -			
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.31									
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	3.58									
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.35									

1 授業の概要、特徴等

フランス語 I は初学者を対象とする。基礎教養科目として、知識・教養を高め、日本以外の言語・文化に関心を持ち、視野を広げることを目的とする。会話を中心とした教科書を用い、簡単な表現を練習しながら初級文法を学ぶ。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業は教員と学生によって成り立っているもので、両者の間に信頼関係がないとなかなか難しいところがある。同一クラスに熱心で真面目な学生とそうでない学生が混在するのは毎年のことではあるが、今回は態度に問題のある学生が複数いて、雰囲気を保つことに相当のエネルギーを費やすこととなった。全体的な低評価は以上の事情に起因すると思われる。それでも⑦教員の熱意と⑩新しい知識や関心でまだしも評価が上で、救われる思いがしている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

言語は文化の根幹を成す重要な要素である。フランス語という新しい言語を学ぶことによって、各々が視野を広げることに道をつけることが、授業の究極的な目標である。単位認定としては、フランス語の構造の最も基本的な部分を理解しているかどうかを判断の基準としている。

4 授業改善の方法

新しいものに取り組もうとする学生の最初の動機付けを後押ししていくことが大事だと思われる。あくまで学問の一つであるという立場を忘れず、自分の手で書く、自分の口で発音するという基本的な学習の筋道を守っていきたいと思っている。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 笹谷 真由美 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 介護過程 I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1405 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.06					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.83					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.67					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや多い	とても多い - やや多い 11.1%	適切	やや少ない	とても少ない	無回答	83.3% - 5.6% -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.22					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.50					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.39					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった	非常に高かった 16.7% やや高かった 55.6%	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答	27.8% - - -
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.22					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.33					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.17					

1 授業の概要、特徴等

介護過程の意義・目的や具体的な展開方法についての概要を、講義と演習を通して学ぶ授業である。受講者は生活福祉コースの学生のみであるが、入学して間もない学生においては、介護についての認識もまちまちであり、実際に介護福祉士がケア内容についてどのような意味づけをしながら行っていくのかがイメージしづらい状況にある。

2 アンケート評価結果に対する見解

評価の数値をみると、全体的には平均と同等もしくは上回っているものが多かった。しかし、自由記述をみると、学生はこの講義の意義を感じながらも、なかなか理解しづらい、介護過程をイメージしづらい状況が示されていた。また、予習・復習の有無や、課題を行ったかの問いに対する回答が低かったことも特徴的である。学生が主体的に学習に取り組めるような配慮が不足していることが考えられ、今後の課題である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標の一つである、介護過程の意義・目的に関しては最終試験での回答内容を見ると、全体的に理解できているのではないかと考える。しかし、介護過程のプロセスごとの意味については、個々によって理解に差がみられた。講義を行っているときには、なかなか理解が得られない場面も多かったが、最終試験の結果をみると合格者の数も多く概ね達成できたと考えるが、実践の場での活用につながるかは現時点では評価できない。

4 授業改善の方法

この講義に関しては、今回公開授業として行い、多くの教職員からご助言を頂いた。学生が主体的に学べるような、授業の工夫についても今後検討していきたい。また、教材についても、適切なものが見つからない状況であり、今後教材開発も行っていく必要があると考える。学生が講義に興味を持てるように、今後はさらに演習を増やしていくことも検討したい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 福田 満代 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 家事支援の技法 I・被服 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1330 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 39名 **回答者数** : 38名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	37	-	-	38	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.53						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.74						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.42						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 2.6%	やや 多い 21.1%	適切 73.7%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 2.6%	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.39						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.39						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.63						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 13.2%	やや 高かった 18.4%	適切 であった 65.8%	やや 低かった 2.6%	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.37						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.47						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.53						

1 授業の概要、特徴等

社会的・文化的な生活を営むうえで重要な役割を果たす被服生活における生活支援の考え方と、並びに知識、技術を習得する。介護を要する人たちが尊厳をもって、その人らしく暮らしていけるように支援するための技法の修得を目指し、現場での応用を重視し、被服材料の知識、被服の役割・管理について学び、機能的で快適な衣環境を整える能力を身につける。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生の評価を率直に受け止め、今後の課題としたい。授業では、多様でかつ、進化、変化する被服材料や衣生活、衣環境に関する知識を深めることが、実際の技術とともに重要であることを理解させたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

単位の認定については、授業への取り組み、すなわち、出席状況・課題の解決・レポートの提出・実習作品への取り組みと出来栄、期末筆記試験を総合的に評価して行う。

4 授業改善の方法

学生は、6月に1ヶ月間の介護実習を体験する。介護現場で、実際の衣生活を観察し、必要とされている支援を発見し、その支援を実現させるための技術の習得へと繋げたい。このクラスはほぼ半数が社会人であること、家庭科教育の受講経験の有無など学生の背景が異なる。それら学生に興味深い、理解しやすい内容、レベル、教材など再度見直し、検討したい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 寺田 孝重 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : グリーンプランニング I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1610 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 28名 **回答者数** : 21名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	17	4	-	-	14	3	-	4	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.10	[Bar chart showing student evaluation average for item 1]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	2.86	[Bar chart showing student evaluation average for item 2]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.90	[Bar chart showing student evaluation average for item 3]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い 14.3%	やや 多い 23.8%	適切 であった 57.1%	やや 少ない 4.8%	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.05	[Bar chart showing student evaluation average for item 5]					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.75	[Bar chart showing student evaluation average for item 6]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.10	[Bar chart showing student evaluation average for item 7]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった		非常に 高かった 23.8%	やや 高かった 4.8%	適切 であった 66.7%	やや 低かった 4.8%	非常に 低かった -	無回答 -
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.81	[Bar chart showing student evaluation average for item 9]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.00	[Bar chart showing student evaluation average for item 10]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.00	[Bar chart showing student evaluation average for item 11]					

1 授業の概要、特徴等

園芸福祉の基礎について、二人の講師が分担したユニークな講座と考えている。私は実習を含む、植物学・栽培学部分を担当し、学生諸君に園芸のおもしろさを理解して(ある程度)もらえたと思っている。 班分け実習のため、雰囲気形成には配慮した。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケートにあるように、講師が二名で分担しているので、これは長所と短所があり、短所の方から見ると授業の違いにとまどったかも知れないが、それぞれは連携していることを理解できた学生には有効な講座であったらと思う。ただ、欠席をすると、訳がわからなくなる可能性があるため、これについては注意をしたつもりである。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標を学生が植物や園芸に興味を持つこととし、テストは行わず、毎回レポート作成を課している。この方法は、出席をうながすことも目的としており、ほぼ満足しているし、学生の中には、色々な質問を書く人もあり、ほぼすべてについて回答している。

4 授業改善の方法

二人の講師が、内容の違う話をしていくことについては、何回も説明し、解説を加えているつもりであるが、アンケートにあるような事を感じる人がいるのは問題であり、これについてさらに説明を加える必要がある。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 前川 良文 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : グリーンプランニング I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1610 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 28名 **回答者数** : 21名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	17	4	-	-	14	3	-	4	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.10		[Bar chart showing student evaluation distribution]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	2.86		[Bar chart showing student evaluation distribution]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.90		[Bar chart showing student evaluation distribution]				
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 14.3%	やや 多い 23.8%	適切 57.1%	やや 少ない 4.8%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.05		[Bar chart showing student evaluation distribution]				
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.75		[Bar chart showing student evaluation distribution]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.10		[Bar chart showing student evaluation distribution]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 23.8%	やや 高かった 4.8%	適切 であった 66.7%	やや 低かった 4.8%	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.81		[Bar chart showing student evaluation distribution]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.00		[Bar chart showing student evaluation distribution]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.00		[Bar chart showing student evaluation distribution]				

1 授業の概要、特徴等

福祉と園芸を学び、人々に対する効果など素晴らしい魅力と草花や野菜など、植物の栽培管理をとおして多くの人が心の安らぎや健康、生きがいを感じる園芸の特質を人々の生活の質を高める為の実習等を行い、障がい者や高齢者などの介護やリハビリのために積極的に活用する園芸療法や園芸福祉を具体的に学ぶとともに、福祉社会のニーズに応える産業人を育成し、農園芸分野における障がい者就労支援についても知識と理解を得る

2 アンケート評価結果に対する見解

受講態度ほとんどの学生は良かった。内容に対しては理解レベルの差がかなり有ったので時間を増やしたかったが詰め込んだ授業になり反省している。進め方については寺田先生と調整し学生が混乱しないようにしたい。興味を持っている学生も多く、もっと時間数を増やし深く伝えていきたいので時間数を増やす事を希望。総合評価で高い評価を得る努力をしていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度 20% 表能力 20% 筆記試験、レポート 60% 事前学習が出来るような環境と流れを作りたい。

4 授業改善の方法

担当講師二人はお互いに授業カリキュラムの調整が難しく学生アンケートにも有る様に趣旨が混乱している学生もいる。寺田先生と私では役割分担が出来ているにも関わらず伝わっていない様に思えるので検討が必要。講師として学生に伝えたいことは相手を尊敬し信頼する社会人としての基本的マナーや身構え、心構えなどをしっかり持った人材教育とコミュニケーション力を身につける様にする為、事例やワークショップを行い、伝達者でない自分の言葉と熱意で講義を行う。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 森永 夕美 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 高齢者の心理 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1510 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	17	1	-	-	18	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.06						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.39						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 5.6%	やや 多い 44.4%	適切 50.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.44						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.50						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.22						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常 に高 かった 16.7%	やや 高 かった 38.9%	適切 であ った 44.4%	やや 低 か った -	非常 に低 か った -	無 回 答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.18						
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.44						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.06						

1 授業の概要、特徴等

授業の概要としては、介護福祉士が主に介護現場を担っている高齢者に関する心理を理解するのを目的としている。そのため、できるだけ、学生が高齢者の心理を推し量れるよう文献やDVDまたは統計データなどを活用した。また、講義を聴くだけでなく、学生が自主的に参加できるようグループワークを導入し発表の機会を持つ、文献レポートを課題とし月に1回(計3回)の提出などを行った。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業態度の予習・復習を行っている学生が少ないのは、テキストの輪読を行ってもかなりたどどしく、事前に読んできている様子がない、テキスト自体を持ってこない学生がいることから表れていた。1回生前期のため、高校生気分が抜けていない、また、そうゆう習慣が高校時代までに身につけていないと考えられる。そのため、授業の最後に次はテキストの何ページを行うかを伝え読んでおくよう指導を行った。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標について、高齢者の心身の変化やそれに伴う心理的課題についての理解はほぼ達成できたと思う。何かを暗記して覚えるのが目的ではなく、高齢者の心理的部分を考え配慮ができる介護福祉士をして、自分の考えをもてるのが目的であり、成績の評価基準も現行通りでよいと思う。

4 授業改善の方法

レポートの書き方については、資料を配布し1回は指導を行った。また、他の授業でそういった内容のものもあるため、本授業では多くの時間は割かなかったが、今まで文章を書いたことのない学生も多く、次回からはもう少し説明時間を確保する。資料については、もらっても放置や整理ができていない学生もみられる。また、授業内容はテキストの中身を読み込めば十分であり、ほとんど必要はないと思う。しかし、実習の事前学習に活用できるよう資料作りを検討する。グループワークについても、機会を増やすようにしたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 赤松 香奈子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : こころとからだのしくみⅡ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1555 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 21名 **回答者数** : 20名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	17	3	-	-	18	-	-	2	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均							
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.50												
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.30												
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.10												
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても 多い</td> <td>やや 多い</td> <td>適切</td> <td>やや 少ない</td> <td>とても 少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>10.0%</td> <td>15.0%</td> <td>75.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	10.0%	15.0%	75.0%	-	-	-
	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答									
10.0%	15.0%	75.0%	-	-	-										
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.35												
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.21												
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.35												
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 低かった	<table border="1"> <tr> <td>非常に 高かった</td> <td>やや 高かった</td> <td>適切 であった</td> <td>やや 低かった</td> <td>非常に 低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>10.0%</td> <td>35.0%</td> <td>55.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	10.0%	35.0%	55.0%	-	-	-
	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答									
10.0%	35.0%	55.0%	-	-	-										
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.21													
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.30												
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.40												

1 授業の概要、特徴等

苦手意識が強い解剖学を、日常生活に密接したからだの成り立ちを説明することで、学生たちもより身近に感じることができ、理解しやすかったと思う。授業のはじめに前回授業内容の小テストをすることにより、学生たちは授業を毎回きちんと受け、ノートを取り、またそのノートやプリントを次の授業で必ず持ってくるということを必然的に行うようになり、また復習にもつながった。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生のレベルにも差があり、もう少しハイレベルなことも加えてもよかったと反省している。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業毎の小テスト50%と定期試験50%で成績評価を行った。小テスト配分が大きいことより、学生が真剣に小テストに取り組み、全体的に高い評価となった。定期試験においても想像していた以上に学生がよく勉強してきており、もう少し問題内容を考えさせるようなものにしてもよかったと思っている。

4 授業改善の方法

スライドをもっと見やすく工夫したい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 池田 曜子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : コミュニケーション演習 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1105 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 73名 **回答者数** : 64名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	61	2	1	-	15	41	5	2	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.02						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	1	2.55						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.77						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 6.3%	やや 多い 18.8%	適切 71.9%	やや 少ない 1.6%	とても 少ない -	無回答 1.6%	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.19						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	3	4.16						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	2	4.23						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 10.9%	やや 高かった 21.9%	適切 であった 62.5%	やや 低かった 4.7%	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	4.16						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.06						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.98						

1 授業の概要、特徴等

毎授業、8名前後のグループを作成し、課題を全員で取り組む。他者との対話や自己提示の方法を授業の初めにプリント配布後説明する。その後、グループ毎に話し合いやロールプレイング、実験を行う。最後に、各自のプリントに結果や考察を記入し、トピックを整理する。授業の特徴として、各トピックでグループ構成員をランダムに変更する為、初対面であってもできるだけ構えず様々な活動が可能ないように構成されている。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業内でプリントを配布し、グループで活動を行う為予習復習が大変困難な授業であるといえる。また、グループで活動している為個人差が出やすく、さらに受講者数が非常に多かった為、個々の学生に対して十分に気を配った指導を行うことが難しかった。加えて、個々の学生のコミュニケーションスキルや苦手意識の有無などが異なるため、全ての学生にとって適切な授業であったかは不明である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業内と毎回の授業後の感想において、目標がどの程度達成できているかを量った。結果、一度では難しいまたは時間が足りないと判断した場合は、次回に復習を行い再度確認した。成績においては、授業内容を用いながら各学生が状況を設定し、具体的なコミュニケーション過程をレポートとして提出してもらい、評定した。さらに授業における理解度を評定するために、配布プリントをまとめて提出してもらった。

4 授業改善の方法

あらかじめ、次回の課題となる内容等をプリントで配布し、記入し考える様にできるなどの工夫を、予習としてとり入れたい。また、グループ構成や1授業の人数を調整することによって、きめ細やかな対応が可能になると考える。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 北口 照美 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 生活経営・管理の技法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1320 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 47名 **回答者数** : 46名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	45	-	-	41	-	4	1	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.39						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.28						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.13						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 2.2%	やや 多い 17.4%	適切 71.7%	やや 少ない 8.7%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	3.52						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.28						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.91						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 8.7%	やや 高かった 32.6%	適切 であった 56.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 2.2%	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.80						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.17						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.91						

1 授業の概要、特徴等

家庭生活の多様な側面を知ること、生活を維持し管理する能力を知識と技術の面から身につけること、ならびに、歴史的な社会の変化による生活やモノの変化を通して高齢者の生活してきた背景を理解することを目的としている。学生個々が、日常の家庭生活の中でどのような立場にあるか、役割を果たしているか、ということから家庭や家族のあり方を考えてもらいたい。

2 アンケート評価結果に対する見解

理解を深めるために、事柄を観点を変えて多様な側面から説明し、各回に復習をしながら講義を進めたが、「同じことの繰り返し」と理解されていたようだ。話し方がわかりにくいや、声が聞き取りにくいとの意見が多かった。勉強する雰囲気を作るように注意を払っていたが、私語をする学生も多く、十分に学生にいきわたらせることができなかつたことが読み取れる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

知識面では専門用語の理解を重視し、技術面では演習問題を課した。理解できていないと推察される部分もある。学生により理解に大きな差はあるが、今後、日常生活を自分で責任を持って重ねていく中で、また、介護現場で関わっていく中で理解が深まっていくことを期待している。

4 授業改善の方法

「ゆっくり」と進めることを心がけたい。これは、話し方、板書、課題などすべてについてである。また、学生からの発言をゆっくり待ちながら、学生の理解の確認と、授業への参加を図っていく予定である。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 富岡 郁子 職名 : 講師 所属 : 生活未来科
 科目名称 : 生活支援技術 I 科目群 : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
 授業コード : 1305 授業形態 : 演習 受講者数 : 18名 回答者数 : 17名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	17	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.53					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.88					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.29					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 多い	とても 多い 11.8%	やや 多い 17.6%	適切 70.6%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.41					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.38					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.59					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 29.4%	やや 高かった 29.4%	適切 であった 41.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.19					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.47					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.41					

1 授業の概要、特徴等

初めて介護技術を学ぶ場であった。学生には、ボランティアを勧めるなど介護の実践現場での様子をつかむよう働きかけてはいたが、技術を習得するには、かなり想像力を要することであったと思われる。また、演習に臨む基本的な行儀等、授業の受け方に重きをおき、本来の介護技術習得にまで集中できないクラスであり、授業の進度に影響があった。後期も引き続き生活支援技術Ⅱにおいて、指導することが可能である科目であるので、前期の復習を兼ねながら進めていく。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生は、ある程度熱心に演習に取り組んでいる様子は伺われるが、教員が求めているレベルは、昨年と同様のレベルを期待するもので、かなり落差がある。クラス全体のモチベーションが幼い部分もあり、伝達方法を、もっとわかりやすく工夫する必要がある。誠実さや忠実に演習に取り組む姿勢や、疑問をもつ学びの姿勢を働きかけていく必要性も感じている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

シラバスに掲げた目標にそって、将来の介護福祉士像に照らし合わせて認定するものとする。

4 授業改善の方法

前期は、毎回の授業でレポートを書くことを求めることができなかったが、後期より、支援技術演習の毎回到レポートを考え、記入する訓練を含めて、書かせる授業に移行する。実習の記録においても、記録の力のなさが課題となったので、普段から記録する力を養成する。また、前期後半、演習室や更衣室の使い方が乱雑になった様子があり、再び基本的なマナーの部分も指導していくものとする。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 浦田 雅夫 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 相談援助の基盤と専門職 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1705 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	2	-	-	1	-	-	4	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.33	[Bar chart showing student average at 4.33]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.33	[Bar chart showing student average at 3.33]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.83	[Bar chart showing student average at 3.83]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い	やや 多い	適切 であった	やや 少ない	とても 少ない	無回答
				-	-	100.0%	-	-	-
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.00	[Bar chart showing student average at 4.00]					
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.33	[Bar chart showing student average at 4.33]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.17	[Bar chart showing student average at 4.17]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった		非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答
				-	-	100.0%	-	-	-
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.33	[Bar chart showing student average at 4.33]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.50	[Bar chart showing student average at 4.50]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.33	[Bar chart showing student average at 4.33]					

1 授業の概要、特徴等

ソーシャルワークの知識、技術、価値(倫理)を学び具体的援助技術を獲得し、対人援助の専門職として活動を行なうための基礎的な資質を高めることが本講の概要である。福祉の各領域における専門職としての役割について具体的事例を中心に講義を行った。とくに、児童分野については重点的に行った。

2 アンケート評価結果に対する見解

予習復習についての項目が落ち込んでいるが、予習復習を講義で要請したことはなく、当該科目においては質問項目として成立していない感がある。一方、予習復習については、次年度より明確に学生に指示をしてみたいと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

レポート試験としたが、十分な成果があったとは言いがたい。現場に出ていく最低限度の知識・技術をつけてほしいと願うばかりだが、十分な成果がなかった原因の半分はこちらにもあり、授業改善にむけて努力したい。

4 授業改善の方法

授業は、学生とともに作るものであると認識している。学生のモチベーションを高めるための授業導入をさらに吟味したい。そのためには、学生がわが身と感じる内容を考えなければならないと痛感している。福祉は、あらゆる生活問題を含んでいて、本来的に、どれ一つ他人事ではない。利用児者の立場に立ちまされる援助者を養成できるような授業内容にしたい。次年度より、いっそう双方向の授業展開を考えたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 福田 佳久子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 点字 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1256a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	15	-	-	15	-	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.33					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.53					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.40					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とても 多い 6.7% やや 多い 53.3%	適切 40.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.87					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.00					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.20					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 26.7% やや 高かった 40.0%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.07					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.40					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.27					

1 授業の概要、特徴等

点字の読み書きができるようになることが、授業の目標であり、実際に点字を読み、点字器を使って、点字を書くことを学ぶ。点字の表記は、基本的には現代国語表記と同じであるが、点字独特の表記のルールもあり、また、すべて仮名書きであることから、読みやすくするために、文節分かち書きをするので、そのルールなども理解する必要がある。

2 アンケート評価結果に対する見解

わかりやすい説明や話し方を心がけたつもりだったが、意外に評価が低く、これが今後の課題だと思う。授業中に、どの範囲まで踏み込むかの迷いがあった所為かもしれない。宿題については、アンケート通り、ほぼ全員が提出してくれたし、アンケート結果からも熱心が見られるので、宿題の結果を復習に生かせたら良いと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

点字の一覧表を見ながらでも良いので、点字の文を読んで、それを漢字・カナ混じり文にすることができること、また、自分の伝えたいことを点字で書くことができること。試験は、墨訳、点訳、点字の文をかくことの3種類を減点方式で採点

4 授業改善の方法

点字に関する周辺事情や、視覚障害者に関する状況も知ってもらいたいと考えていたが、7回という回数で点字を覚えてもらうためには、点字の習得に目標を絞り、実技に重点をおいて進めるようにしたいと思う。テキストのカバーしていない部分をプリントにして配布したが、難しかったようなので、テキストに沿って、基本の理解に重点をおいて授業をすすめたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 中村 妙子 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : カラーコーディネート論 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2430 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 57名 **回答者数** : 50名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	45	4	1	-	1	40	5	3	-	1	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.28						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.04						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.06						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い 2.0%	やや 多い 20.0%	適切 76.0%	やや 少ない -	とても 少ない 2.0%	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.84						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.12						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.02						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった		非常に 高かった 2.0%	やや 高かった 28.0%	適切 であった 70.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.92						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.02						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.94						

1 授業の概要、特徴等

色彩に関する基礎的な知識を理解し、生活に役立てることができることを目指す。“なぜ、色が見えるのか”や、“光が織りなす色彩現象”など、科学的なアプローチをしながら学ぶ分野から、色の持つ心理的効果や配色の方法など色票を用いて確認しながら学ぶ分野へと学びを深めていく。それにより、色彩に興味を持ち、これまで無意識に見ていた色彩を意識的に見るように心がけ、色彩を意識して生活に取り入れていけるようにする。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講態度は、居眠りや遅刻をしないことや、与えられた課題に取り組んだことは、平均より高かったが、予習や復習はあまり行っていない結果となった。課題に対して評価を行ったので、課題には真面目に取り組んだが、予習、復習は指示をしなかったからと考えている。授業の進め方は、平均よりやや劣っている。色彩の理論的な部分への関心を高めることや、理解度差を少なくすることの難しさを感じている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

色彩に関する基礎的な知識を理解し、生活に役立てることができることを目標としている。平常点 20%、レポート 20%、課題 60% の割合で修得程度を評価し、単位認定をしている。

4 授業改善の方法

身近な色について、興味が出るように様々な工夫が必要かと考える。演習形式も取り入れて行っているが、人数が多くなると目が行き届かなくなるので、できるだけ学生の興味を引くような題材を使って、身近に色を意識できるように心がけたい。人数が多くなると、理解度の低い学生や、課程外科目として目的意識の違う学生をどのようにフォローをすればよいのかは課題である。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 須谷 和子 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食事療法実習 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2195 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 32名 **回答者数** : 31名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	31	-	-	-	31	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均												
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5								
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.29																	
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.23																	
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.06																	
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても多い</td> <td>やや多い</td> <td>適切</td> <td>やや少ない</td> <td>とても少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>3.2%</td> <td>6.5%</td> <td>90.3%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答	3.2%	6.5%	90.3%	-	-	-					
	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答														
3.2%	6.5%	90.3%	-	-	-															
授業の進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.32																	
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.32																	
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.29																	
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	<table border="1"> <tr> <td>非常に高かった</td> <td>やや高かった</td> <td>適切であった</td> <td>やや低かった</td> <td>非常に低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>3.2%</td> <td>29.0%</td> <td>67.7%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答	3.2%	29.0%	67.7%	-	-	-					
	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答														
3.2%	29.0%	67.7%	-	-	-															
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.10																		
総合評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.23																	
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.19																	

1 授業の概要、特徴等

食事療法論と連動して各病態別に食材の選択、分量、調理方法を理解し制約がある中で美味しい治療食を作ることを目的としている。栄養士免許取得後の就職先はさまざまで、保育園から介護福祉施設に至るまで、あらゆる場面で実践力を試されることが多い。従って一回の授業で1つの病態のことがマスターできるよう内容を設定している。今年度は、糖尿病食事療法のための食品交換表の改訂があり、教科書購入が秋以降になるということで、基本的な実習をするにとどめた。9月に病院の学外実習に出る学生もおり、前期で最低限の内容を取り入れた。前年度と同様、費用面で許す限り腎臓病食の特別な食材は取り寄せて、知ってもらうように心がけた。

2 アンケート評価結果に対する見解

「食」に対して違った角度から実習を行うことで、学生の視野も広がったのではないかと考える。「減塩」や「腎臓食」「アレルギー対応食」などをテーマにしているため、学外実習先で卵・牛乳・小麦粉を使わないお菓子を考えるように、と出される課題を考える際の参考にもなっている。学生の声からも「目で見て作って食べたので、楽しかったし分かりやすかった」とあり、実践につながっていると実感できた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

実習終了後に必ずレポートを提出してもらった。病態にまつわること、自分ならどんなメニューを取り合わせるか、アレルギー対応の実習時には献立作成も課題にして取り組んでもらった。成績については授業態度50% レポート提出50%として評価した。学生が実習に取り組む姿勢、課題提出状況は相対的に良好で、授業しやすい環境であった。

4 授業改善の方法

現場で必要とされる技術や知識を定着させるためにも、学外実習で出される課題と上手く絡めて学生に指導したい。説明の部分の更なる充実をはかること、食事療法論の講義内容とできるだけ並行して進められるようにしていきたい。普通食から糖尿病食や腎臓病食への展開、こちらが準備した材料を使ってその場で簡単な献立を作り、実習をして試食までができるような授業にするのが理想である。3時間目の授業ということもあり、授業内容によっては作る料理の量が多くて食べきれないという声があったので、授業の予告や作る分量について検討していきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 池内 ますみ **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食品科学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2145 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 50名 **回答者数** : 46名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	45	-	1	-	-	46	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.57						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.22						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 8.7%	やや 多い 19.6%	適切 69.6%	やや 少ない 2.2%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.17						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.30						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.31						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 19.6%	やや 高かった 47.8%	適切 であった 30.4%	やや 低かった -	非常に 低かった 2.2%	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.82						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.04						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.87						

1 授業の概要、特徴等

栄養士資格の必修科目で、栄養士としての基礎的な知識として身につける必要がある。食品成分の化学物質名や化学構造など、高等学校で理系科目の学習が十分ではない本学の学生にとっては難関科目の一つである。基礎栄養学や生化学とともに栄養士の土台となる科目であるため、到達目標に達することが強く求められる。1回生前期であるため、ここでフェードアウトすることがないように、学生ひとりひとりの理解度に合わせてフォローすることが必要であると考えている。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業のレベルについては予想通り非常に高い、やや高いが7割近くになった。栄養士資格に関係する科目であるため、一定の水準はクリアする必要があるため、レベルを下げることは難しい。課題については大多数の学生がこなすことができたので、今後は課題について工夫をすることで理解しやすいよう工夫したい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

今年度は社会人がクラスに多数在籍しているため、社会人については、十分目標達成ができていた。一般学生の中には、授業に出席することすら困難な学生も数名あり、無資格の学生が出た。授業期間中に実施した試験については、試験勉強用のプリントを配布し、それを持ち込んで試験を受ける形態に変更した。このことにより、試験を受ける以前に勉強することを放棄する学生は減らすことができた。試験結果でも、多くの学生が試験のための学習をしたことが伺えた。

4 授業改善の方法

授業を先に進めることを中心にしていたが、学生に発言する機会を与えることでお互いに確認しながら進められるよう工夫したい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 三浦 さつき **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食品微生物学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2405 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 17名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	17	-	-	-	15	-	-	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均																
				1	2	3	4	5												
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.06																	
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.76																	
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.35																	
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても 多い</td> <td>やや 多い</td> <td>適切</td> <td>やや 少ない</td> <td>とても 少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>17.6%</td> <td>82.4%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	-	17.6%	82.4%	-	-	-					
	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答														
-	17.6%	82.4%	-	-	-															
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.59																	
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.76																	
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.18																	
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	<table border="1"> <tr> <td>非常に 高かった</td> <td>やや 高かった</td> <td>適切 であった</td> <td>やや 低かった</td> <td>非常に 低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>11.8%</td> <td>88.2%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-	11.8%	88.2%	-	-	-					
	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答														
-	11.8%	88.2%	-	-	-															
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.47																		
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.47																	
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.59																	

1 授業の概要、特徴等

2回生の選択科目であり、発酵食品をはじめとした、微生物の有効利用についての内容が中心となっている。テキストは使用せず、毎回使用するビデオ教材と連動した内容の資料や図表をまとめたプリントを配布し、実物サンプルを用いたり、最終回には発酵食品の試食も行ったりしながら、具体的に学べる授業となるように工夫している。

2 アンケート評価結果に対する見解

栄養士のための必修科目ではないため、知識の定着よりも、楽しみながら微生物や発酵に関する事柄を幅広く学べるように心がけている。今年度に限っては、6月の産休前に補講も入れながら集中的に開講したが、欠席者も少なく、学生の意欲も高かったといえ、アンケートの結果にも表れていた。専門科目ではないため、予習・復習をする学生が少なかったことはやむを得ないと考えている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

シラバスの提示どおりに、授業態度や課題レポートによる成績評価を行っている。課題レポートでは、1人1種類の発酵食品をテーマに選ばせ、それについて文献なども活用しながらまとめる課題として提出させている。レポート課題については、昨年度までは期限を守れない学生が多かったが、全員が期限を守って提出されていたので、評価に反映させたいと考える。15回を通して、学生の理解度は深まり、課題レポートの内容も充実していたことから、目標はほぼ達成できていたのではないかとと思われる。

4 授業改善の方法

前半でビデオ視聴をする際に、寝てしまう学生がいたため、ビデオを視聴前に注意してほしいポイントなどをあげるようにしていたが、それでも集中できない学生がいた。来年度からは、授業の展開について、さらに学生の興味・関心を引き出せるような工夫をしたいと考える。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 毛受 真由美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 人体の構造と機能 I **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2115 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 49名 **回答者数** : 46名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	44	1	1	-	-	46	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.07						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.09						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.98						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 2.2%	やや 多い 26.1%	適切 69.6%	やや 少ない 2.2%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.85						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.84						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.02						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 13.0%	やや 高かった 41.3%	適切 であった 43.5%	やや 低かった 2.2%	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.00						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.04						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.93						

1 授業の概要、特徴等

基本的な人体のしくみについて説明しました。慣れない専門用語の暗記も必要なので授業内に演習を行い質問の時間を設けました。

2 アンケート評価結果に対する見解

意欲のない学生へのアプローチをもう少し積極的にすべきであったかと思えます。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

单元ごとに試験を行い、知識の定着をはかりました。繰り返し試験を行うことで出席日数の足りている学生全員の単位を認定できました。

4 授業改善の方法

意欲的な学生のためにももう少し専門性の高い話を交えつつ、基本的な知識を習得できるような授業展開にしたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 松河 哲男 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : イラストレーション **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3435 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	2	-	-	-	-	4	2	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価															
					■ 学生の評価平均															
					1	2	3	4	5											
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.83																	
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	2.17																	
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.33																	
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	<table border="1"> <tr> <td>とても 多い</td> <td>やや 多い</td> <td>適切</td> <td>やや 少ない</td> <td>とても 少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>16.7%</td> <td>16.7%</td> <td>66.7%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	16.7%	16.7%	66.7%	-	-	-					
	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答														
16.7%	16.7%	66.7%	-	-	-															
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.50																	
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.00																	
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.50																	
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	<table border="1"> <tr> <td>非常に 高かった</td> <td>やや 高かった</td> <td>適切 であった</td> <td>やや 低かった</td> <td>非常に 低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>100.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-	-	100.0%	-	-	-					
	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答														
-	-	100.0%	-	-	-															
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.50																		
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.17																	
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.67																	

1 授業の概要、特徴等

昨今、社会において、非常に必要な要素となっているプレゼンテーション。そのツールとして有効であるのが、グラフィックデザイン。それらの意味を理解し、今後、社会人として上手く利用できるよう実習で経験し、身に付けることを目標としている。

2 アンケート評価結果に対する見解

目標が、美術公募の草分けである二科展デザイン部に作品を提出することがはっきりしているのも、学生たちの意識がぶれることが少ないと思われる。それがアンケートの結果として、はっきり現れている。実際、作品提出者の殆どが結果を出しているのも、ほぼ、目標は達成できたと思っている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標①全国公募二科展（東京六本木新国立美術館～）デザイン部・イラスト部門に作品2点を応募すること。②大阪市立美術館・二科大阪展デザイン部併催：産経新聞主催ポストカードデザイン大賞に作品を提出すること。 評価：作品の提出とその内容。さらに作品制作に取り込む態度。 単位：作品提出。

4 授業改善の方法

作品制作のスピードに個人差が出てしまうので、もう少し足並みが揃うよう内容を訂正したいと思う。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 谷村 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 経理実務 I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3160 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 1名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	4.00						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	4.00						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	100.0%	-	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	3.00						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	5.00						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	5.00						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	非常に 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			100.0%	-	-	-	-		
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.00						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.00						

1 授業の概要、特徴等

商業高校出身者や簿記初心者、興味のある人やまったくない人、家庭やアルバイト先で金銭を扱った経験のある人やない人など、少人数ながら様々な属性の学生が集まっていた。そのため、それぞれのモチベーションや理解度の差に留意しつつ、各自の金銭管理経験を引き出し共有させるよう尽力した。

2 アンケート評価結果に対する見解

回答者が一人のため、評価には偏りが感じられるが、おおむね妥当ではないかと考える。理解度に関しては、アルバイト経験や家庭での小遣い管理経験を聴き出しながら、学習内容を実体験と紐付きで捉えられるよう配慮したが、そういった経験の全くない学生に理解させることは困難であった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

「簿記の概念を大づかみに把握する」という当初の目的は、概ね達成できたと思う。しかし、モチベーションの低い学生、(おそらく今までの一般的な学習経験の不足により)学習方法が分かっていない学生、算数知識が非常に乏しい(百分率の意味が分からない、桁数の大きい計算ができない、分数の意味が分からない等)学生が多く、昨年の理解レベルを大きく下回っていたことは否めない。

4 授業改善の方法

毎回簡単な確認テストのようなものを行い、各自の理解度を確認しながら進めていきたい。そして、質問や個別フォローの時間を多めにとるなど、全体の進捗に差し障りがないよう留意しつつフォローしていきたい。また、今までの金銭管理経験に基づいた学生同士のディスカッションを交えるなど、経理知識の必要性(および最低限の算数知識の必要性)を腑に落としてもらうための工夫をこらしていきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 大倉 清教 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : プロダクトデザイン I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3443 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.80	[Bar chart showing student average at 3.80]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.00	[Bar chart showing student average at 3.00]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	4.80	[Bar chart showing student average at 4.80]					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	40.0%	40.0%	20.0%	-	-	
授業の 進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.00	[Bar chart showing student average at 3.00]					
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.00	[Bar chart showing student average at 3.00]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	3.00	[Bar chart showing student average at 3.00]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	20.0%	60.0%	20.0%	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.20	[Bar chart showing student average at 3.20]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.40	[Bar chart showing student average at 3.40]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.60	[Bar chart showing student average at 3.60]					

1 授業の概要、特徴等

実際のビジネス現場でおこなわれているデザインプロセスを実体験し、その手法を活用できる人材を育成することが目標です。特に近年ではグループによる検討や討議、検証に参加できることが求められるので、課題制作などグループ活動を主体に進めるようにカリキュラムを組みました。一方でフェイスブックを利用して講義内容をアップすることで復習できるようにし、個別のG&Aに応える仕組みも取り入れて授業の補完を行ないました。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケートの結果はたいへん残念で、ひどくショックを受けています。1名の学生の回答が他の4名の回答と全く異なり、最低レベルの評価になっていることは、予想しませんでした。この学生には、特に気を使って授業を進めていたからです。また、中国からの留学生は、言葉の壁があり、スムーズな指導ができなかったことも要因です。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

ビジネスシーンで用いられる、KJ法やブレインストーミングの手法は、ある程度習得できたと思われませんが、学生にはデザインの授業をするには基本的な知識や技能が不足しているため、課題制作のデザインそのものを評価するレベルには至りませんでした。中でもデザインの進め方と手法に興味を持って、課題に積極的に取り組んだ学生がいたことは救いです。

4 授業改善の方法

「デザイン」に興味を持たせて、日常生活の中で活用できるテーマに絞ってグループ活動を主体に丁寧な指導を行なう必要を感じています。また本大学には、デザインの課題制作のための画材がそろっていないので、学生たちに簡単なデザインの課題制作ができる程度の最低限の道具をそろえる必要があります。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 向井 光太郎 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : マーケティング **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3180 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	5	1	-	2	-	5	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.33						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.33						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.42						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	16.7%	75.0%	8.3%	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.75						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.64						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.67						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	41.7%	58.3%	-	-		
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.25						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.42						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.50						

1 授業の概要、特徴等

本科目は、製品やサービスを通じて企業が顧客に価値を届ける仕組みを学ぶ機会である。ここでは、身近な商品やサービスの事例を用いて売れる仕組みを製品、広告、流通、価格を組み合わせ、市場の細分化、ターゲティングおよびポジショニングをミックスさせて考えることを目指している。学生一人ひとりのアイデアやセンスを尊重し、マーケティング発想を養うためにコミュニケーション機会をなるべく設け、アクティブラーニング形式で講義を進めている。

2 アンケート評価結果に対する見解

各項目とも、大きく講義で目指していたものと自分のアプローチのイメージに近いリアクションを得ていると認識している。ビジネス領域の科目としてマーケティングは、卒業後の社会人生活でも身につけておくに役立つ知識や考え方が多く含まれる領域なので、講義スケジュールを通じて、身近な知識として認識してもらえよう工夫したことがリアクションには反映されている。他学科コース学生に対する理解度を上げるために講義テーマについて繰り返し学習することも取り入れた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

講義の中でテーマに関する自らのアイデアや意見を述べさせるよう、発言機会を設定した。また、小テストを実施して新たな製品やサービスを考える機会を設定した。その上で学期末試験で記述問題に取り組みさせた。さらに出席ポイントとコミュニケーションポイントを加えて総合評価を実施した。 ①出席ポイント ②知識習得ポイント ③コミュニケーションポイント ④テストポイントで100ポイントとして算出した。

4 授業改善の方法

マーケティングに関心を持ってもらえるよう、常に新しい事例ケースを紹介・提示したい。そして、学生の進路や就職希望先での仕事内容に関連している実感を与えられるよう更なる工夫も必要だ。出来れば、今後はさらに知識を深められるよう繰り返し学習させる機会を増やす枠組みの設定も必要だ。常に、題材選択眼と理解度の向上にこだわって講義を進めていきたいと考えている。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 大城 弓恵 職名 : 非常勤 所属 : 地域こども学科
 科目名称 : 音楽 I 科目群 : 地域こども学科 専門教育科目
 授業コード : 55304ab・cb 授業形態 : 演習 受講者数 : 12名 回答者数 : 8名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	8	-	-	-	-	-	-	7	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均							
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.75	[Progress bar]					[Progress bar]						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.50	[Progress bar]					[Progress bar]						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.50	[Progress bar]					[Progress bar]						
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切		とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答						
				-	25.0%	75.0%	-	-	-						
授業の進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	5.00	[Progress bar]					[Progress bar]						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	5.00	[Progress bar]					[Progress bar]						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.63	[Progress bar]					[Progress bar]						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった		非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答						
				-	37.5%	62.5%	-	-	-						
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.88	[Progress bar]					[Progress bar]						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.50	[Progress bar]					[Progress bar]						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.75	[Progress bar]					[Progress bar]						

1 授業の概要、特徴等

この授業はピアノの演奏技術の習得を目標としている。課題はピアノ曲の演奏とこどものうたの弾き歌いの2種類があり、弾き歌いに関してはカデンツを用いた伴奏を学ぶ。授業は個別レッスンとグループレッスンとに分け行う。グループレッスンではEP教室を使い歌唱やピアノ演奏のテクニック、弾き歌いの伴奏練習を行い、個人レッスンでは各自の課題曲のチェックをする。

2 アンケート評価結果に対する見解

この授業は個別にレッスンを行うので、授業の雰囲気が乱れることは少ないと感じる。予習復習、宿題の項目ではきちんと取り組んだという回答が多くあったが、確かに全く何もせずに授業に来る学生はほとんどいなかった。しかし設定した課題が出来るようになるまで取り組んできた学生は少なかったように思う。「弾いてきた」が「弾けるようになった」になるよう練習法の提示など指導の工夫がもっと必要だと感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成はピアノ曲と弾き歌いを課題曲数以上合格していることで判断する。期末試験は課題曲(弾き歌い)と、自由曲(ピアノ曲)の2曲で、自由曲はそれぞれのレベルに応じた曲を選ぶ。評価は演奏に対する絶対評価で行う。期末試験の評価に平常点等を加味し最終成績とする。

4 授業改善の方法

年々ピアノ初心者が増えているように感じる。初めてピアノに触る学生にとっては1曲を完成させることはとても困難なことだと思う。しかし上達には個人の努力しかないので、保育の現場では必要不可欠であることと練習すれば出来るようになることをしっかり伝えることが重要であるように感じた。限られた個人レッスンの時間内にいかに理解してもらえるか、もっと考えていきたいと思う。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 大西 有紀 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304ac•bb•cc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	1	-	-	-	14	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.47	[Progress bar to 4.47]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.93	[Progress bar to 3.93]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.93	[Progress bar to 3.93]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答
				-	40.0%	60.0%	-	-	-
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.73	[Progress bar to 4.73]					
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気不乱れないように注意を払っていましたか	5	4.67	[Progress bar to 4.67]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.73	[Progress bar to 4.73]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった		非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答
				-	53.3%	46.7%	-	-	-
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.60	[Progress bar to 4.60]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.47	[Progress bar to 4.47]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.53	[Progress bar to 4.53]					

1 授業の概要、特徴等

個人レッスン、EP教室での集団レッスンの2つの形態で行う。ピアノ、弾き歌いを中心とし、次年度の授業へ向けてカデンツ等、伴奏付けの基礎を学ぶ。個人レッスンなので各自のレベル・能力に合わせたきめ細かい指導を行うことができる。

2 アンケート評価結果に対する見解

課題量・内容が多少高度・・と、回答する学生が少なからず見受けられた。幼稚園・保育園で働くには現在取り組んでいる内容以上の事が求められる。教え方・日々の練習方法などを創意工夫しレベルの向上に努めたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題曲数を満たしている。出席状況。授業へ取り組む姿勢。定期試験の受験。総合的に加味し60点以上で単位認定する。

4 授業改善の方法

ピアノは日々のたゆまぬ練習が不可欠である。授業時は皆、真面目に取り組んでいるが、普段の練習は足りていない。。。と、感じることは多い。自身で意欲的に練習に取り組むよう指導してゆきたい。又、ピアノは楽しいと感じてもらえるような授業ができるよう私自身が勉強に励み真摯に学生と向き合ってゆきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 中島 倍代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304ae・bd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	7	1	-	-	-	-	-	7	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.75						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.25						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	4.25						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	25.0%	75.0%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.63						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.38						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.50						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	50.0%	50.0%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.50						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.50						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.50						

1 授業の概要、特徴等

ピアノと弾き歌い(ピアノを弾きながら歌う)の個人レッスン45分と集団授業45分で構成。学生を5つのグループに分け、個人レッスンと集団授業(EP教室で・・・電子ピアノを利用)の両方を受けさせる。

2 アンケート評価結果に対する見解

初めてピアノを弾く者、初めてではないが経験が少ない者が多く、単位取得レベルまで力上げるにはかなりの時間と努力が必要である。今の所、内容に付いて来れている様なので、スタートとしてはまずまずと感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

保育現場でちゃんと使える力を付ける事が目標である。試験の出来、日頃の努力度、出席状況、合格した曲数等の各々の基準値をクリアしていれば単位を認定している。

4 授業改善の方法

各教科からの課題も有り、家庭の事情でアルバイトが必要な学生も少なくない。当然、練習時間の確保は難しくなる。個人により、理解度や経験に結構「差」があるので 早く個人の特性を捉えて、それに即したやり方を確立する。時には、「有無を言わずやらせる」事も必要。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304be・ce **授業形態** : 演習 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	7	2	-	-	-	-	-	8	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価															
					■ 学生の評価平均															
					1	2	3	4	5											
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.56	[Progress bar]																
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.22	[Progress bar]																
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.11	[Progress bar]																
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	<table border="1"> <tr> <td>とても 多い</td> <td>やや 多い</td> <td>適切</td> <td>やや 少ない</td> <td>とても 少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>11.1%</td> <td>11.1%</td> <td>77.8%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	11.1%	11.1%	77.8%	-	-	-	[Progress bar]				
	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答														
11.1%	11.1%	77.8%	-	-	-															
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	5.00	[Progress bar]																
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	-	4.78	[Progress bar]																
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.67	[Progress bar]																
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	<table border="1"> <tr> <td>非常に 高かった</td> <td>やや 高かった</td> <td>適切 であった</td> <td>やや 低かった</td> <td>非常に 低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>22.2%</td> <td>11.1%</td> <td>66.7%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	22.2%	11.1%	66.7%	-	-	-	[Progress bar]				
非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答															
22.2%	11.1%	66.7%	-	-	-															
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.56	[Progress bar]																
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.78	[Progress bar]																
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.67	[Progress bar]																

1 授業の概要、特徴等

ピアノ演奏の初歩、バーナム・ケーラーの教則本を用いての授業。童謡弾き歌いの導入 音符の読み方・楽譜の理解・楽語の理解。指導は個人授業。

2 アンケート評価結果に対する見解

ピアノは予習、復習ができていないとなかなか課題のクリアは難しい。予習がしやすくなるように譜読みや演奏のポイント等を指導している。時間の経過と共に少しずつ課題に取り組む姿勢にばらつきが出てくるので、常に学生が前向きに取り組めるよう気を配っている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

初級の楽譜が自分で譜読みでき、演奏出来る事が目標。大きな声で童謡の弾き歌いができる事。決められた曲数を全て合格し、課題となる曲を試験で演奏する。演奏にミスはなかったかを複数の講師で採点し平均点を出す。平常点も加味される。

4 授業改善の方法

弾き歌いの音程が取れない学生の指導に力を入れたい。個人指導とEPの講師が連携をとり、学生の指導を行う。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304af・bf・cf **授業形態** : 演習 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	1	1	-	-	-	-	15	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.69						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.06						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.75						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 18.8%	やや 多い 18.8%	適切 62.5%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.63						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.38						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.44						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 37.5%	適切 であった 37.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.50						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.25						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.63						

1 授業の概要、特徴等

授業は、個人レッスン45分とEP教室でのグループ学習45分とで構成されており、学生にとって効率の良い学習ができるよう連携している。保育現場で必要とされるピアノの基礎技術を習得し、初級用ピアノ曲の表情豊かな演奏とこどものうたを弾き歌いする方法を学ぶ。十分な演奏技術を身に付ける為に、毎日の真剣な弛まぬ努力を求める。

2 アンケート評価結果に対する見解

課題の量や内容が「とても多い」と答えている学生と、授業のレベルが「非常に高かった」と答えている学生については、努力を重ねることによりかなりの内容は修得していただけるので、予習復習をし、毎日きちんと取り組んでいってほしい。取り組みが足らなかった学生については、自身へのより高い評価ができるように指導していきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

単位認定には、中間と期末の2回の試験を受け、ピアノ曲と弾き歌い曲で合計4曲以上の合格を求める。また欠席は5回以下であること。成績評価は、試験時の演奏内容による評価の他、合格曲数による達成点や欠席回数による減点が加味される。

4 授業改善の方法

個人レッスンにおいては、一人ずつのレッスン時間には限りがあるので、この時間内により充実した指導をしていく為に、学生個々の個性を理解し、学生が具体的な目標を持って努力出来るように、またそこから達成感を得て努力を継続していききたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅲ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55320ab・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	11	-	-	-	-	-	12	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.42	[Bar chart]					[Bar chart]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.00	[Bar chart]					[Bar chart]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.83	[Bar chart]					[Bar chart]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とても 多い 8.3%	やや 多い 41.7%	適切 50.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	[Bar chart]				
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.58	[Bar chart]					[Bar chart]				
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.83	[Bar chart]					[Bar chart]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.75	[Bar chart]					[Bar chart]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 58.3%	適切 であった 16.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	[Bar chart]				
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.75	[Bar chart]					[Bar chart]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.58	[Bar chart]					[Bar chart]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.33	[Bar chart]					[Bar chart]				

1 授業の概要、特徴等

一回生音楽Ⅰでピアノ試験に合格した学生が対象の授業である。基礎技術はある程度身につけているので 更なる演奏技術表現力を磨き 保育現場において様々な曲に対応しうる能力を習得する。又 就職試験に対応できるようにする 初見演奏を経験する 学生があらゆる場面で 自信をもって ピアノ 音楽に接していけるように向上させる

2 アンケート評価結果に対する見解

学生たちは 非常に前向きに授業に取り組んでいた 音楽Ⅰの内容が変わったが 少ない曲をじっくり取り組み 完成度の高い演奏を心掛けてきているので ただ弾くのではなく タッチによって音色が変化する 難しいところを楽にひくことが出来るテクニックを 熱心に聞いて実践している学生が多かった 自分の音楽に耳を傾け 素敵な演奏をしたいと 納得の行くまで練習をする学生もいた ただ保育表現が手一杯の学生は 後期開講されないため その曲を教えて欲しいというケースもあった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 山口 直範 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 社会的養護内容 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53221 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 67名 **回答者数** : 51名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	2	47	1	1	-	-	-	50	-	1	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.90						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.29						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.82						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	と ても 多 い	や や 多 い	適 切	や や 少 な い	と ても 少 な い	無 回 答	
			-	13.7%	86.3%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.39						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.49						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.65						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非 常 に 高 か っ た	や や 高 か っ た	適 切 で あ っ た	や や 低 か っ た	非 常 に 低 か っ た	無 回 答	
			5.9%	33.3%	60.8%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.35						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.43						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.41						

1 授業の概要、特徴等

指定しているテキストには各章ごとに演習課題が設定されているため講義毎に1~2つ実施した。演習は内容に応じて説明前や説明後に行い、学生の意見を聞きながら進めた。児童虐待、DV、発達障害、非行行為、不登校などについて学生に考えさせることに重点を置いて取り組んだ。

2 アンケート評価結果に対する見解

本講義は毎回演習を行うため、予習はしないように伝えていた。話を聞いてその場で限られた時間の中で自分の気持ちをまとめてほしいからである。また、学生の評価は参考にするが、今後も自分ならではの講義に努めていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

専門用語や細かい言いまわしよりも、人としてどうあるべきかを理解しているかが評価の基準であった。講義内の演習参加と講義内の試験によって評価した。

4 授業改善の方法

筆者の方針として座席指定をしないため、仲よし同士での私語の減少が課題である。座席指定はしないが、隣の人は1つ席を空けて着席することも検討している。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 中島 順子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 障害児保育 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53211 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 65名 **回答者数** : 56名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	56	-	-	-	-	-	55	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.91						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.41						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	3.80						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 8.9%	やや 多い 37.5%	適切 51.8%	やや 少ない 1.8%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.04						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.96						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.11						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 42.9%	適切 であった 42.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.00						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.23						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.09						

1 授業の概要、特徴等

① 障害児保育を支える理念や歴史の変遷から現状について理解する ② 様々な障害(知的障がい・自閉症スペクトラム障がい・ADHD・学習障がい等)について理解する ③ 個々の発達を促すかかわりとはなにかを学ぶ ④ 具体的な援助の方法、環境構成、連携等について学び、理解する

2 アンケート評価結果に対する見解

佐保短期大学で初めての授業であったので、授業の進め方は戸惑いました。毎回授業は名簿順で授業を受けてもらいました。態度に問題のある学生はある程度把握していました。注意や約束などは何度も言いましたが、改善が難しくおもいました。 教員の熱意を問われるより、学生の熱意が気になりました。授業を積極的に受けている、又、真面目に取り組んでいる学生と、そうでない学生の態度の差が激しく悩まされました。 授業の理解度の差もあり、授業態度は良くても理解できているように思われない学生もいました。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度：講義・演習時の姿勢・コミュニケーション力(15%) 筆記試験(70%) 中間・総括2回 出席・確認課題提出(15%)

4 授業改善の方法

聞く・見る・板書・プリント・ビデオの使用の工夫をする。 授業内容の小テストなどで必要な用語は覚えさせるようにする。携帯の片付け方について考えたい!

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 早川 淳 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健A **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52100 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 99名 **回答者数** : 77名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	65	11	1	-	-	-	-	75	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.75						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.01						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.43						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 14.3%	やや 多い 26.0%	適切 53.2%	やや 少ない 5.2%	とても 少ない 1.3%	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.27						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	3.12						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.40						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 10.4%	やや 高かった 35.1%	適切 であった 49.4%	やや 低かった 5.2%	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.21						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.68						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.48						

1 授業の概要、特徴等

「子どもの健全な心身への成長と発達への理解を深めていく」ことを中心テーマにして、そこから、身体発達や生理・運動・精神機能の発達について理解を推し進めて、子どもを取り巻く環境そのものが子どもの身体への成長発達のプロセスや健康問題などがどのような影響を及ぼすのかについて学びながら、子どもの保健面に関して保育者として取り組んでいかなければならない役割も同様に学びに取り入れながら進めた。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生の意見を真摯に受けとめながら、自己改善していきたいと思う。・字が汚いことについては一番気をつけながら授業を進めた。どうしても大事なところなどは板書した、それも学生に理解できるように板書して、努力したつもりである。 今後は板書の方法を考案してわかりやすい方法を検討していく。・声は小さいのは学生の私語が私の声より大きいこともあると思うので私語に対しては注意した。今後も、私語しないような授業をしていくのが目標である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

前期に自分の授業目標達成ができていくかどうかと、尋ねられると不十分な点もあると思います。学生の成績評価に対して、平均点が65.4なので授業の目標達成はできているかと自負しています。しかし、ノート持込でこのような点であるのは達成できていないかと疑問に思います。学生側から、客観的にみると、実際子どもと関わることができる実習を経験する前後では子どもに対しての見方や感じ方が変化してくる。そのため、子どもへの身体発達や成長と関係のある保健についても同様なことが言える。

4 授業改善の方法

現場の教諭や保育士達が一番、養成校に期待するのは子どもの年齢別発達の様子である。そのため、授業のなかで子どもの発達や成長などは小児保健の分野でもある。もちろん、小児保健は身体面であるがやはり心理面の発達もかね添えていなければいけない。 学生の意見も大事にしなから現場の声も大事にして学生に勉強の意欲がわくように授業内容にしていくつもりである。 そのためにはプリントが行き渡るように気をつけながら板書に対して、理解が深まるようにしていきながら良い講義ができるように努力していく決意です。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 安永 龍子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健演習 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52121 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 65名 **回答者数** : 58名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	57	-	-	-	-	-	56	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.57						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.81						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.59						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 1.7%	やや 多い 31.0%	適切 67.2%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.90						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.09						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.19						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 8.6%	やや 高かった 43.1%	適切 であった 48.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.81						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.02						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.81						

1 授業の概要、特徴等

・子どもの発達・発育、健康状態、養護等について小児保健で学習した内容を想起させながら学習を進めている。そして身体計測やバイタルサインの測定、赤ちゃんの抱き方、沐浴、衣服の着脱及びおむつ交換などの演習をし、さらに理解が深まるようにしている。また、小児の救急蘇生に関する演習もしている。

2 アンケート評価結果に対する見解

・授業態度について、私語などをしない学生は半数近くしかおらず、半数は授業中に私語などを行っている。これは、席を自由にしていることで仲の良い学生で隣同士で着席していることも要因になっていると考える。また予習復習をしない学生が3分の2にも上っていた。これは、学習意欲の低下を示すものであると考えられ、学習意欲を低下させる要因としては、授業のレベルがやや高い(やや高いと答えた学生が半数近くいる)ということがあるのかもしれない。資格取得には必修の科目でもあり、学習意欲を高める授業の工夫が必要であると考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・授業の目標が達成されているか否かは筆記試験による評価で行い、2回実施した。成績評価については、筆記試験の結果と授業態度等を含めた総合評価とした。その結果、再試験は、37名で、再試験を放棄したもの2名、単位認定できなかったものが、3名いた。

4 授業改善の方法

・授業環境について；席順を決めて着席を促す。 ・授業内容について；演習内容を増やすとともに、技術的な評価を行う。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 村田 トオル **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 体育 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55600 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 83名 **回答者数** : 72名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	71	1	-	-	-	-	-	72	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.49						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.48						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.13						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 12.5%	やや 多い 2.8%	適切 83.3%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 1.4%	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.50						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.39						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.63						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 15.3%	やや 高かった 19.4%	適切 であった 61.1%	やや 低かった 2.8%	非常に 低かった 1.4%	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.35						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.36						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.52						

1 授業の概要、特徴等

①自分が楽しむこと②友達を作ること③幼児教育の現場で実践できる内容④安全な用具の管理の4つを重視して、主にバレーボール、バスケットボール、バドミントン、ドッジボールなどチームスポーツを中心にプログラムを組み立てている。ドリル練習などを終えるとすぐにリーグ戦あるいはトーナメント方式でゲームを行い、強いチームのみが勝つのではなく、弱くても勝てるようなルールに配慮している。また待機チームには、得点係や審判の役目を与え、学生全員がかかわるような授業運営とした。毎回、「今日の内容をどう幼児教育の現場で使えるか」を振り返りとして理解を深めるような工夫を試みた。

2 アンケート評価結果に対する見解

全項目において、全体平均値を上回った評価を得られたのは、まず主体である学生が「楽しい」「この種目面白そう」という内容に徹底したことがあげられよう。体育のイメージはとかく「教員からやらされる」「教員から罵声をとんでくる」というマイナスイメージが先行しがちであるが、「楽しくて、友達ができて、学べて、ついでに単位が取れる」という逆の発想から授業運営を行った効果があるものと感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

幼児体育の現場で求められる種目のうち、基礎となる前転(前回り)の習得を目標達成とした。個人差はあったものの全員ができるようになり、子どもの前で見本ができるレベルにまで達したかと思う。成績評価は前転、後転の実技テストのほか、役割が与えられたときの積極性や勝利至上にならないようにするための配慮などの受講態度や安全配慮についての理解ができているかという要素も加味している。

4 授業改善の方法

改善について特段考えてはいないが、ルールとして終了後の清掃を徹底をしたい。種目については、学生が望むのは競技スポーツが多いので、今後はバタンク、キンボールなどのニュースポーツを取り入れ、勝敗だけにこだわらない種目を導入する予定である。スポーツフィールドとの棲み分けで非常に運営に苦慮する科目ではあるが、まずは保育者自身が運動は楽しいと思える内容としたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 石田 裕子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育心理学 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52001 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 99名 **回答者数** : 77名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	63	11	3	-	-	-	-	73	-	1	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均																
				1	2	3	4	5	1	2	3	4	5												
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.69																						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.92																						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.71																						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても 多い</td> <td>やや 多い</td> <td>適切</td> <td>やや 少ない</td> <td>とても 少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>6.5%</td> <td>29.9%</td> <td>62.3%</td> <td>1.3%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	6.5%	29.9%	62.3%	1.3%	-	-										
	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答																			
6.5%	29.9%	62.3%	1.3%	-	-																				
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.30																						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.36																						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.21																						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	<table border="1"> <tr> <td>非常に 高かった</td> <td>やや 高かった</td> <td>適切 であった</td> <td>やや 低かった</td> <td>非常に 低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>7.8%</td> <td>33.8%</td> <td>55.8%</td> <td>1.3%</td> <td>-</td> <td>1.3%</td> </tr> </table>	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	7.8%	33.8%	55.8%	1.3%	-	1.3%										
	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答																			
7.8%	33.8%	55.8%	1.3%	-	1.3%																				
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.10																							
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.25																						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.30																						

1 授業の概要、特徴等

保育実践にかかわる心理学の知識を習得する目的で行った。テーマに沿って、教科書の対応ページを記したワークシートを用意した。重要な説明を書きこむように指導した。また視覚教材も多く用い、理解が得られるようにした。中間テストも一度実施した。

2 アンケート評価結果に対する見解

全体の結果と比較すると、①私語や居眠り、遅刻をしないで受講しましたか、という設問の得点が著しく低い。私語はさせないように極力注意を払ったが、居眠りに関しては、2度起こしても起きない、再び寝てしまう学生についてはそのままになっているのが現状である。居眠りを再三注意することで、授業を集中して聞いている学生の妨げになることを懸念しての現状である。居眠りをどうしてもしてしまう学生の中には、深夜までアルバイトをしているケースもあり、生活指導が必要な状態である。⑩この授業を受けて新しい知識が得られ、問題意識や関心が高まったと思いますか、という設問についてはわずかであるが、全体より高い結果である。これは、心理学という新しく学ぶ学問が、子どもを保育する際に多角的に関連することが実感をもって学ぶことができた満足感によるものと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

シラバスに掲載した目標は以下のとおりである。生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める 子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する 評価については、授業が1/3終了した時点でのテスト、最終講義が終了した後のテスト、授業後のミニレポート、受講姿勢などによって評価をした。テスト結果は3極化した。学習意欲の高い学生には得点を取りやすかったようであるが、予習復習をしない学生にとっては、テスト範囲が広く、学習が十分にできなかったようで、評価基準を満たせなかった学生も数名いた。

4 授業改善の方法

現在2回行っているテストを3回にし、それぞれのテスト範囲を狭くする必要がある。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 和田 公子・片岡 三和 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育表現演習 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53165 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 61名 **回答者数** : 54名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	53	-	-	-	-	-	54	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均						
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.30											
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.59											
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.11											
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや多い		とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答					
			-		3.7%	96.3%	-	-	-					
授業の進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.76											
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.63											
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.83											
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった		非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答					
			1.9%	14.8%	81.5%	1.9%	-	-						
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.70											
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.72											
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.74											

1 授業の概要、特徴等

保育所・幼稚園で実際保育をするにあたって、保育士として、また教師として子供の前に立つ心構えや一人一人の成長を祈っての活動展開であることを自覚し、意味のある保育の展開方法を様々な分野から見せてみてやらせてみて気づかせたいと願っている。覚えるものではなく、感じて取り組むものである。

2 アンケート評価結果に対する見解

特になし

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

制作表現や身体表現等教師と共に展開する実際を経験して子供一人一人に思いのあることを実感し、さらにそのことが表現力を培う基礎となることについては少し理解できたかと思う。演習取り組みや課題への取り組み等、個人差はみられるが向き合っている姿は評価できる。

4 授業改善の方法

15回の演習であったが、できるだけ1年を通して行うこと。教師がして見せることとその説明がおおきく占めていたが、学生たちが教師となってやってみる時間が少なかった。1年を通して展開する中で教師がやって、次に学生たちがやってみる・・・その時間のためには1年を通して展開することかと感じる。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 河合 摂子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53140ab・cd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価				
				■ 学生の評価平均				
				1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.44	[Progress bar from 1 to 4.44]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.56	[Progress bar from 1 to 4.56]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.67	[Progress bar from 1 to 4.67]				
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い - やや 多い 22.2% 適切 77.8% やや 少ない - とても 少ない - 無回答 -	[Progress bar from 1 to 4.67]				
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.89	[Progress bar from 1 to 4.89]				
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.00	[Progress bar from 1 to 4.00]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.89	[Progress bar from 1 to 4.89]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 11.1% やや 高かった 44.4% 適切 であった 44.4% やや 低かった - 非常に 低かった - 無回答 -	[Progress bar from 1 to 4.89]				
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.89	[Progress bar from 1 to 4.89]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.67	[Progress bar from 1 to 4.67]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.78	[Progress bar from 1 to 4.78]				

1 授業の概要、特徴等

主に、幼稚園、保育園へ就職する学生の為の弾き歌いの技術を学び、身につける実技中心の授業。多様化する現場で取り上げる曲目を中心に、声をしっかり出し、歌詞を明瞭に、止まらず演奏出来ることを達成点とする。 毎日の練習が重要である。

2 アンケート評価結果に対する見解

今回、⑥の質問の平均が悪いことが気になった。気をつけているつもりだが、苦手な学生、また練習不足な学生に時間をかけ過ぎてしまい、ある程度、演奏出来る生徒への気配りに配慮が足りなかったかもしれない。反省し、改善につとめたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題も多く、そして達成点も高いので、学生にはきちんと身につけられたと思う。ピアノだけは経験が大きく左右するので、授業態度、出欠、取り組み度、課題曲数等、すべての面で評価の対象とし、単位認定していることは、良いことだと思う。

4 授業改善の方法

曲の内容が定番の曲が多いので、最近園等で、使われている曲も取り上げたい。集団の授業で行う模擬授業の内容も、もう少し研究させて、学生にとって、お互い刺激となり、実習等で、役立つものになりたい。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 澤田 博 職名 : 教授 所属 : 地域こども学科
 科目名称 : 保育(表現・音楽) 科目群 : 地域こども学科 専門教育科目
 授業コード : 53140bf 授業形態 : 演習 受講者数 : 5名 回答者数 : 5名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	5.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.60						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	3.60						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	とても 少ない	とても 多い 40.0%	やや 多い 60.0%	適切 -	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.00						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.20						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.00						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 40.0%	やや 高かった 60.0%	適切 であった -	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	2.20						
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	3.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	2.60						

1 授業の概要、特徴等

こどものうたのひきうたいとリズム曲を演奏するための練習方法を学び、保育現場での実践に必要な技術を習得することを目的とする。授業は、グループ学習で曲の説明と全体的な練習を指導し、個人レッスンでそれぞれの練習成果を確認し必要に応じた個別指導をする形で進められる。採用試験に対応できるよう、期末試験はスーツ着用のうえ所属・氏名等をきちんと名乗り、挨拶してから演奏することとしている。

2 アンケート評価結果に対する見解

予習(授業前練習)や復習(修正を指示された箇所の練習)が十分といえない。「予習・復習をした」ということは、その曲が弾ける・歌える状態に達して初めて言えるものであることを理解していない。取組についても同様である。学生のいう理解度への配慮は「自分がそれほど努力せずにできる範囲」なので、そうした配慮はしない。ただし個人の能力を計りながら合格を認定した点から、理解度について十分配慮している。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

「その楽曲に求められる演奏ができた」ではなく、「楽曲の練習に取り組んだ」ことを授業目標としているので、目標は達成されている。授業内で指定曲数(今年度は12曲)を合格し、期末の演奏試験に合格して単位が認定される。複数教員が担当することから、評価について事前に話し合い基準を共有している。個々の曲の合格ラインは、学生の能力により多少の変動を可能としている。

4 授業改善の方法

1. 1回生の「音楽I」において、ピアノの練習方法を確実に習得させる。 2. 初講でカデンツの復習を徹底させる。 3. グループ学習と個人レッスンの役割分担を明確にすることで、学生がその時点で何に取り組まねばならないかを自覚させる。 4. 音楽の授業のみで改善できないことであるが「自ら学ぶ姿勢の獲得」を学習成果に掲げ、本学の全ての授業で取り組む。さらにその結果を検証していく。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 本間 晶子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53140ac・bd・ce **授業形態** : 演習 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	13	-	-	-	-	-	10	-	-	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.77						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.62						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.54						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 7.7%	やや 多い 53.8%	適切 38.5%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.31						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.54						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.38						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 38.5%	やや 高かった 30.8%	適切 であった 30.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.08						
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.69						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.00						

1 授業の概要、特徴等

個人レッスンとグループ学習で構成される。個人レッスンでは、リズム表現のためのピアノ曲と、子供の歌の弾き歌いを仕上げる。子供の歌はカデンツを応用し、暗譜演奏で合格となる。グループ学習では、発声練習の他、課題の和声や指使いを確認する。また、歌の指導法についても学び、模擬授業も行う。

2 アンケート評価結果に対する見解

与えられた課題にきちんと取り組んだ自覚が低いことが残念だ。総合評価のデータがあまり芳しくないのが、関連しているかと思われる。反省点としたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

カデンツを応用して子供の歌を10曲以上暗譜で弾き歌いできること、さらにリズム表現のためのピアノ指定曲を2曲演奏できることが、授業の目標達成には必要である。12曲合格を前提に、実技試験点、平常点、達成点などを合計して成績評価基準とし、単位が認定される。

4 授業改善の方法

課題曲数はだいたいゆとりをもって指導できる範囲内だったと思われる。学生に真の実力として、弾き歌い力を身につけさせる為に、最後の実技試験を自由曲1曲にせず、複数曲指示しておいて、レパートリーとして複数曲を常時弾ける体制を作るのも一考かと思われる。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 武田 千幸 **職名** : 講師 **所属** : 専攻科
科目名称 : 介護総合演習 I **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7330 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.22						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.78						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.89						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 11.1%	やや 多い 22.2%	適切 66.7%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.44						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.44						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.44						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 44.4%	適切 であった 44.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	4.44						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.44						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.44						

1 授業の概要、特徴等

介護実習に向けての授業であり、実習の意義・目的、到達目標、実習の流れ、実習項目、実習中の諸注意等を学生に伝えている。学生が自ら目標をもって実習に臨み、目標を達成できるよう、また今後の学習意欲の向上につなげていくためにも、実習で直接利用者が実習指導者と関わり、少しでもたくさんのご経験を、学ぶことができるよう実習に向けて準備を行う授業を行っている。

2 アンケート評価結果に対する見解

全ての項目において、全体平均に近い評価になっている。課題に取り組んだかどうかを問う項目についてのみ、全体平均を下回る結果となった。5月に第一段階、8月末に第二段階の実習があり、前期に実習に向けての取り組みや課題が実習2回分あることで、学生は課題が多いように感じ、思うように取り組むことができなかつたのかも知れない。しかし、実習スケジュールは変えられるものではないため、学生自身が納得できるように課題の意味や取り組み方を更にわかりやすく伝えていく必要があると感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

実習に出るまでは頭の中で考えても想像できない部分がほとんどだったと思われる。第一段階実習を終えた後、利用者像がイメージでき、それを授業につなげることができた学生については自己の課題も明らかになり、目標達成に近づけたと思われる。成績については、提出物、演習への取り組み、ディスカッションへの参加態度を総合して評価し、単位認定を行った。

4 授業改善の方法

まずは今まで保育を学んできた学生であることを再認識し、介護の学び、そして実習へ意欲がもてるような工夫が必要であると考える。口頭で説明することに加え、視聴覚教材を更に活用し、目で見て、音で聴いて実習に向けて少しでも介護の現場をイメージできるような工夫を今後していきたいと考える。視聴覚教材だけでなく、卒業生からの体験談等も活用したいと考える。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 松岡 美穂子 職名 : 非常勤 所属 : 専攻科
 科目名称 : コミュニケーションの基本 科目群 : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
 授業コード : 7235 授業形態 : 演習 受講者数 : 11名 回答者数 : 6名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.83						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.17						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.33						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い	やや 多い	適切 であった	やや 少ない	とても 少ない	無回答
				-	-	83.3%	16.7%	-	-
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	3.50						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.33						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.33						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった		非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答
				-	-	100.0%	-	-	-
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	3.67						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.83						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.83						

1 授業の概要、特徴等

コミュニケーションの基本では、表現力を中心にプレゼンテーションの力を養えるように考え、分析しまとめて発表することを実施しました。聴く力を養うために他の学生の発表から、考えをまとめ質問する発言力をつける時間も本来のコミュニケーション能力をつける意味で時間を取りました。

2 アンケート評価結果に対する見解

ワンワードのグループでの演習では、活気もあり日頃の授業とは違い個々が考えて発現する場面では雰囲気が乱れているとは感じていませんでした。また熱意の部分で伝わりきれなかった事について、真摯に振り返りをし、今後の授業に活かしていこうと思います。学生の将来に役立つ内容になっていることは評価しました。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生の発言力も授業回数を重ねるごとに修得しているように思います。レポート提出に関しては、3つのタイトルから選択した課題レポートと授業中の態度・授業への積極的参加の度合いから評価し、プレゼンテーションの評価点を加算しています。

4 授業改善の方法

このたびの授業においては、理解できているか否かの確認として小テストの実施をしなかったことで一人一人の理解力の調整ができていなかったと思います。聴講生の方とのバランスもあり、工夫が必要であったと思います。また事前に聴講生の方を含め何名の学生を対象にするのかを理解し授業の組み立てをする必要があったように思います。

教員による授業アンケート (2013年度 前期)

教員名 : 遠藤 光子 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 生活レクリエーション **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7230 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	8	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.50		[Bar chart showing student evaluation average]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.13		[Bar chart showing student evaluation average]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.38		[Bar chart showing student evaluation average]				
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	と ても 多 い	や や 多 い	適 切	や や 少 な い	と ても 少 な い	無 回 答	
			-	75.0%	25.0%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	2.75		[Bar chart showing student evaluation average]				
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	2.88		[Bar chart showing student evaluation average]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.38		[Bar chart showing student evaluation average]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非 常 に 高 か っ た	や や 高 か っ た	適 切 で あ っ た	や や 低 か っ た	非 常 に 低 か っ た	無 回 答	
		-	75.0%	25.0%	-	-	-		
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	2.63		[Bar chart showing student evaluation average]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.38		[Bar chart showing student evaluation average]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.13		[Bar chart showing student evaluation average]				

1 授業の概要、特徴等

レクリエーション(以後レク)とは何か?を考えてもらい、レク支援の実施のための基本となる知識、技術を説明していった。毎回の授業では多種多様のレク財の楽しさを体験してもらいながらも、ただ単にレクの仕方を覚えるというのではなく、レクがなぜ必要か、人に与えられる影響(生きる意欲にまで繋がる)等を深く理解してもらいたいと思い、多くのお年寄りとの実例を同時に伝えていった。

2 アンケート評価結果に対する見解

全員が高齢者と関わる仕事に就かないかも知れないが、生活レクを学んで頂くのであるから、できるだけ多くのことを伝えたかった。内容の濃い授業にしっかり向き合ってくれた。他の授業や、多くの人々との関わりや経験が深まる中で、何か月何年かの後に「ああ、このことだったのか」と感じたり、授業で学んだことを思い出してレク活動に役立てて頂ける能力が個々にあると確信している。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

日々学んだ内容や感じたこと、疑問点等レポートを提出してもらった。それをもとに繰り返し説明し、書いてもらった事を学生間で共有するなかで、個々理解を深めてもらっていた。覚えてほしいこと・大切なことを網羅できているかで都度評価をしたがほぼ書けていた。又、アイデアのユニークさや考え方の幅の広さ等に今後の活躍を楽しみに感じた。レポート形式で授業内容をまとめてもらいテストし、単位認定した。

4 授業改善の方法

理解度の差はできる限り小さくしないといけな。もっと知りたい、学びたいという思いが溢れ、海綿の様に吸収できる多くの学生達には満足感を覚えてもらいたい。看護学校の授業も同様で、生活歴の短い若い方達はしんどい思いをしていたが到達度が低くて良いということはない。レクにより、ゆっくりじっくり行うものと、さらりと紹介のみをするもの等のメリハリを考えてみたい。

